

変化



朝井リヨウ

瑞々しい感性。

同世代のありのままを切り取る鋭い観察力。

インタビュアーの方から、このような言葉で紹介していただけたことがよくあります。もちろん、いいことを言っていただけではないので、とても嬉しいしありがたいことなのですが、私は、なんともいえない気持ちになってしまふときがあります。なぜならば、私がある作品に対して「感想、伝えづらいな……」と思っただけなのに、よく使う言葉に、「瑞々しい感性」と「鋭い観察力」が含まれているからです。ついでに、「刺激を受けた」も私が多用する要注意ワードであることもこの場を借りて報告しておきます。

この小説『スペードの3』には、瑞々しい感性も、最近やたらと「ゆとり世代」ではなく「きとり世代」と名付け直されているような同世代も出てきません。これまでの私の作品を好んでくださっている

た方々が、「読んでみたい」と思うような小説なのかどうか、正直、わかりません。それでも私はどうしても、著者名を隠して読んでもらったときに、朝井リヨウ、という名前が全く思い浮かばないような小説を書きたい、と思いました。そして、そんな考えが芽生えたのは、勤め先の会社で黙々とデスク業務をこなしているときでした。私は、二十歳で作家デビューをしました。二十二歳で大学を卒業し、その春にある企業へ就職しました。そろそろ、学生作家と呼ばれる期間よりも、サラリーマンとしての期間のほうが長くなるうと思っています。その中で沸き立つように「書きたい」と生まれ出てきた感情が、この『スペードの3』のもととなりました。

この小説には、三篇の物語が収められています。

一篇目「スペードの3」の語り手は、とあるミュージカル女優・香北つかさのファンクラブ「ファミリア」の代表を務めながら、大

手企業の関連会社で事務の仕事をしている三十歳手前の女性、江崎美知代。

二篇目「ハートの2」の語り手は、同じくとあるミュージカル女優・香北つかさの華やかさに憧れつつも、自分の外見にひどくコンプレックスを抱いている中学二年生の少女、明元むつ美。

三篇目「ダイヤのエース」の語り手は、ある大きな劇団を退団し所属事務所を移籍したのち、仕事が減りつつあることを肌で感じているミュージカル女優・香北つかさ。

三人とも、私の会社のデスクの上に現れました。毎日バツ印をつけていく卓上カレンダーと、日に日に数が減っていく電話メモの間に、現れました。

社会人として働いている上で沸き立った感情を書く。瑞々しい感性と言われるようなものに頼らない。同世代のリァリティという点で評価されようとする。その他にも、私がこの小説で果たしたいと思ったことはたくさんあります。ずっと抱いていた「ミステリー小説に挑戦したい」という野望や、比喩の量を削りつつ魅力的な文章を書けるのかという挑戦など、これまで胸の中に秘めていたものに、ようやく手をつけ始めることができたような気がしています。

待ってたって、「革命」なんて起きないから。この小説の帯には、そんな一文があります。

私は、毎日同じデスクで資料を作りながら、見知った来客にお茶を出しながら、一字一句変わらぬ文句で電話を受けながら、思ったことがあります。それは、このまま生きていくだけだと、このまま

生きていくというだけで終わっていくということです。生きていくことに区切りなどなく、もしあるとしても、きつとも最後の区切りはとっくに通り過ぎてしまったのだということです。たとえばこの先、私がいまの勤め先を辞めて専業作家になったとしても、私以外の人にとっては、そんなことはどうだっていい。私以外の人にとって、きつとも、私の名前はこれからずっと変わることはありません。その中で、私は、自分自身の力で、変わろうとしなくてはならないと、そう感じたのです。同じような言葉で感想を言われないように、自分から、変わらなくてはならない。

待ってたって、「革命」なんて起きない。現実世界に、「ジョーカー」なんて現れない。ずっと胸に秘めている「スペードの3」のカードは、使うタイミングのないまま、ただの紙になってしまふ。

それぞれの人生がさまさまな場所で重なり合い、語り手の三人はあるターニングポイントを迎えます。彼女たちのターニングポイントを書くことは、私にとってのターニングポイントにもなったのだと、書き終えたいま、そう感じています。

そして、この小説を書き終えたとき、私はこの先、さらに変化を続けていきたいのだと自覚しました。「スペードの3」から始まる新たな作品群を、早くこの胸の中から吐き出してしまいたい、強く思っています。何も怖がることなどないのだと、自分が生み出したキャラクターに、背中を押されているような気持ちです。

この小説の感想が、朝井リヨウが書くものへの本当の感想なのかもしれない。そんな予感が芽生えています。(あきい・りょう 作家)